

第3章 菩提心の受持

1. すべての有情が悪趣の苦しみを〔離れ、来世で恵まれた生を得て〕休息するための〔因となる〕善をなし、〔悪趣の〕苦しみを持つ者たちが幸せに住することを喜び、随喜いたします。
2. 悟りの因となる善を積むこと、それを随喜いたします。からだを持つ者（生きとし生ける者）たちが輪廻の苦しみから確実に解放されることを随喜いたします。
3. 守護者〔である仏陀〕たちの悟りと、菩薩たちにも随喜いたします。
4. 一切有情に幸せを与える菩提心生起という海のような善と有情利益の行ないを喜び、随喜いたします。
5. 十方位におわす仏陀たちに合掌して祈願いたします。苦しみの闇に惑う有情たちのために、法の灯火を灯してくださいように。
6. 涅槃に入ることを願う勝利者（仏陀）に、〔私は一切有情のために〕合掌して祈願いたします。この盲目の有情たちを放置せず、無限劫にわたりとどまってくださいように。
7. このように、〔帰依、供養、礼拝、懺悔、随喜、請願、祈願など〕これらのすべて〔の行〕をして、私が積んだすべての善により、一切有情のすべての苦しみを取り除くことができますように。
8. 有情という病人がいる限り、その病が癒されるまで、〔私が〕薬と医者と看護師とすることができますように。
9. 食べ物と飲み物の雨を降らせて、飢えと渇きの病をなくし、飢饉の劫の間は、私が食べ物と飲み物になることができますように。
10. 有情が〔物資に〕不足して困窮する時は、私が尽きない蔵となり、様々な必需品として彼らの前にとどまって、〔それらを与える〕ことができますように。
11. からだ、所有物、三世において積んだすべての善も、一切有情を利益するために惜しみなく与えるべきである。

12. すべてを与えることで涅槃に入り、私の心は涅槃を成就する。〔来世に旅立つ時〕すべてを手放すことは同じでも、〔手放すことは早かれ遅かれ確実なので、今この時にそのすべてを心から廻向して〕有情たちに与えるならば、それが最もすぐれたことである。

13. 私は命あるすべての者たちの幸せのためにこのからだを与えてしまったのだから、〔有情たちは〕いつでも〔私を〕殺そうと、非難しようと、叩きのめそうと、〔私のからだはすでに有情の所有物なので、からだに対する執着も彼らへの怒りもないゆえ〕好きにすればよい。

14. 私のからだをもてあそばさうとも、軽蔑や物笑いの種にしようとも、私のからだはすでに与えてしまったので、鳥がこのからだをどうしようともかまわない。

15. (では、気持ちの上ではからだを与えてしまったのだから、からだの面倒は見なくてよいのかと言うとそうではない) この〔からだ〕に、〔自他すべてに役立つ〕害を与えない〔善き〕行ないを何でもさせるべきである。〔有情たちが〕私を対象として、どんな時でも決して〔罪を犯すなどの〕無意味なことをすることがありませんように。

16. 私を対象に、誰かが嫌悪や不信を持ったりしても、それが〔縁となって〕常にすべての目的が達成される因となりますように。

17. 誰かが私を非難しても、他の人が私を〔殴ったり叩いたりして〕害を与えても、あるいは陰口を言ってもかまわない。〔自分に関係のある人〕すべてが悟りを得る恵まれた者となりますように。

18. 私は守護者のない者たちの守護者となり、旅する者たちの船長となり、向こう岸に渡りたい者たちのために小船や船、橋となることができますように。

19. 私は島を探す者たちの島となり、〔暗闇をさ迷い、〕灯明が欲しい者たちの灯明となり、寝床の欲しい者たちの寝床となり、奴隷を欲するすべての生きものたちの奴隷となることができますように。

20. 〔何を望んでも叶えてくれる〕如意宝珠、善き水瓶、真言による成就、〔年寄りが若返る〕偉大な薬、〔考えただけで衣食などすべてが叶う〕如意樹、〔命ある者たちの利益と幸せを高める〕如意牛などになることができますように。

21. 地などの四大や虚空のように、常に限りない有情のために、様々な方法によって有情の生存のもととなれますように。

22. そのように、虚空の果てに至る〔すべての〕有情世界に対し、常に、一切有情が涅槃に至るまで、私が彼らの生存の因とすることができますように。

23. このように、以前如来たちが菩提心を起こされて、菩薩の学処（六波羅蜜、四摂事などの菩薩行）を順序どおり実践されたように、

24. [私も] そのように、有情を利益するために菩提心を起こして、そのように〔菩薩の〕学処も順序どおり実践いたします。

25. このように、知性ある者（菩薩）は非常に〔清らかな心で〕菩提心を〔堅固に〕維持し、最後に増大させる〔実践をする〕ために、このように〔喜びを起こして〕心を励ますべきである。

26. 今、〔菩薩戒を授かり〕私の人生は実りあるものとなりました。人間の恵まれた生を得て、今日、仏陀の系譜を持つ者として生まれ、今こそ仏陀の息子とすることができますように。

27. 今、私は何としてでも、この系譜にふさわしい〔四摂事、六波羅蜜など菩薩の〕善き行ないを始めて、過失のない清らかなこの系譜を汚すことのないようにいたします。

28. 盲人がゴミの山の中から宝石を見つけた時のように、この菩提心が偶然私の心に生じた。

29. 有情の死の神ヤマ（閻魔王）を打ち負かす最もすぐれた甘露もまた、これ（菩提心）である。有情の貧困を取り除く尽きない蔵もまたこれ（菩提心）である。

30. 有情の〔すべての〕病を〔完全に〕鎮める最高の薬もこれ（菩提心）である。輪廻の道をさまよう疲れ果てた有情に休息を与える大樹もこれ（菩提心）である。

31. [輪廻をわたり行く] 一切有情を悪趣から解放する橋〔も菩提心〕である。有情の煩悩〔による熱〕の苦しみを取り除く心の月がのぼった。

32. 有情の〔心にある〕無知という白内障を拭い去る偉大な太陽〔もまた菩提心〕である。正法というミルクを攪拌するとバターという心髓（菩提心）が得られた。

33. 輪廻の道を行く有情という旅人は、幸せという財産を求める者であり、これ（菩提心）は最高の幸せにとどまらせ、有情という大いなる旅人を満足させる。

34. 私は今日、〔仏陀、菩薩たちなど〕すべての守護者たちの御前で、〔一切〕有情を〔究極の目的である〕如来の〔境地に導くため、〕それまでの間は、〔一時的な目的である天人や阿修羅の〕幸せ〔を与えるため〕に客人として招いた。それ故、天人、阿修羅なども喜んでくださいますように。